

々が樹氷をつけて長い影を引いている有様は神苑の趣がある。徳沢の森も神秘的な美しさを見せていた。私は独りでスキーで奥又に入ってしまった。谷の中は両岸より落下するデブリが山の様に積って居り、特にデブリが沢の底をえぐって対岸にのし上げた部分は滑り台の様に氷板になって凄惨な感じを与える。此の下には先日遭難した神戸の両君が眠っているのだ。10h 頃から西穂の方向、即ち南に大きな高積雲が東進しはじめ、稜線がらは波状の Cc が速く東進する。13 時松高ルンゼ取付点に達し、岩と氷の殿堂の素晴らしい眺めに時の経つのも忘れる。寒冷前線通過と云っても穂高では此の程度の変化しか起らない。寒さで手足は全くしびれてしまい、いくら揉んでも直らない。夕方南方の Cc に著しい幻日と彩雲が見られた。夕方山巡の高橋照氏等のパーティー到着、吾々の 2 人が帰着した。気象庁山岳部の長田君が単独でやって来た。同君は此の翌々年の秋八ヶ岳で死亡された。前回と同じく此の程度の寒冷前線の通過では上高地ではほとんど晴れたままであることがわかる。

1月4日 今日奥又が真紅に燃えて夜が明ける。私は岩堀君と帰還に向い、大雪原をスキーで飛ばした。気温が低いので粉雪の軽さは内地では見られないものであった。穂高神社を過ぎると急に氷板になって滑りにくくなって来る。大正池付近から穂高は雲に蔽われ雪足が垂れ下っている。これは南岸低のためだから上高地はやはり表日本の気候だと云える。ホテルで上岡氏にあう。上岡氏は一昨冬 2 名で下又白で雪崩にあい、10 日後に救出されている。梓川に入ると空は晴れて居た。18h 坂巻温泉に着いた。翌 5 日も快晴に恵まれ、デブリの山を越えて沢渡に戻った。

### むすび

1. 此の冬は暖冬であったため意外に天気が良かった。従って以下の記述には更に此の点をつけ加えて考えて頂きたい。
2. 常識に反して上高地周辺の山は表日本の気候に属している。
3. 移動高或いはシベリヤ高気圧の高圧部に蔽われた場合は常に天気はよい。但し稜線では風が強く凍傷事故が多い。
4. 寒冷前線通過の場合は西から Ac が急速に走りきたり、やがて黒い Sc がやってきて吹雪となる。然し 5 ~ 6 時間でやむ。此の点は裏日本と大分違っている。
5. 低い寒冷前線は西穂方面のみを越えて、穂高方面は越えられない。又天気はほとんど悪くならず風が強くなり気温が下るだけである。
6. 南岸低気圧の影響は裏日本より強く受けて悪天候となり易い。(これは今回はなかったが、今迄起った大部分の事故は台湾坊主による新雪雪崩や吹雪である)
7. 雪は梓川では深く旧雪雪崩が多い。穂高神社以南では雪は極めて少なく氷板となって居り、西風が強い。穂高神社より奥は粉雪が積っているが、気温が低いので溶けないだけで量は少い。従って新雪雪崩を起し易い。濁沢も北ア北部に比べれば少いが新雪雪崩は極めて多い。

### 参考文献

- 1) 上高地のお正月, 大井正一, 溪流, 14, 25, 26, 27 (1957).
- 2) 冬山合宿報告, 岩堀道男, アルム通信, 29 (1957).

### 〔新書紹介〕

長期予報とその利用法, 長期予報研究会編, B 6 版, 170 頁, 恒星社発行, 1962 年 7 月, 400 円。

気候の年輪, 気候研究グループ編, A 6 版, 85 頁, 気象協会発行, 1962 年 7 月, 250 円。

両者とも、最近気候の変化や天候の異常を前もって知って計画を立てるのに用いようという一般の要望や、最近気候は曲り角に来ているが、その詳細をという技術者の要望に答えるために、気象庁長期予報管理官室の技術者が中心になって作っている長期予報研究会、気候研究グループの人々によって、前者は主として啓蒙の、後者は多少共専門的な立場から書かれたものである。

前者は学生、長期予報を利用する人々に判りやすくしようと述べられているように一般人への理解を主として書かれている。そのために全体 7 項目のうち 5 項目、約 100 頁は日本における気候を、冬、春、梅雨、台風一過秋になるの順序で動気候学的な立場から説明してあ

り、これだけよめば日本の一年の気候の概要を知ることができるようにしてある。その上で気候の年々の異常をどうして知るかの長期予法の方法、そしてその利用の方法、分野等が説明してある。

後者は日本の気候についての知識は一応持っている人々に対して日本の気候がここ数十年間にどのように変化して来たかを、降水量の変動と渇水、昔の梅雨、今の梅雨、暖冬ともおわかれか、わずれられた凶作、変わりつつある風水害の諸項にわけて述べ、最後にこれからの気候はどうなるかという形で総まとめとしてある。その一項に今後冬の気温は下る傾向にあるとあるが、今年の冬の寒冬と思いを合わせて興味深いものがある。

両者とも比較的筆者による不統一も少く編集されているが、慾を言えば現在の学問研究の段階では困難ではあろうが、気候や天候の変動についても少し詳細な説明がほしかった。

(長尾 隆)